

夏発進！まちを明るくした

3大 ひの NEWS

若者が新たに始めた挑戦、地域で十数年ぶりに復活したプロジェクトなど…。この夏、まちを明るくした HOT な話題を紹介！



01 カレー王国鳥取に「のうカレー」！ 新プロジェクト始動

高校生がカレーを開発。
ふれあいまつりでも販売予定

「広報ひの5月号」でも取り上げたこのプロジェクト、日野町役場地元改革(=JK)課のメンバーを中心に、島根県東出雲町の「カレー工房ダーニャ」の門脇さんと開発を続け、8月19日には試食会を開催。今後は、パッケージのデザインなどを決定し、11月24日の生きいきひの、ふれあいまつりで販売予定とのこと。期待が膨らむばかりです。

カレー開発で中心的役割を担う田中真優さん(右)。松本真緒さん(左)らJK課のメンバーや田中さんの通う米子南高校の生徒らが力を合わせ、もうじき完成間近とのこと

トマトやシイタケ、ピーマン…日野郡自慢の食材にこだわったカレーが完成！



02 農村の景観再生と地域資源の活用を。 復活した炭づくり

13年ぶりに取り出された漆黒の竹炭。
竹の有効活用を目指して力を結集！

森林や景観の保全の妨げにもなり得る竹。そんな竹を地域資源として有効活用しようと、13年前に途絶えた炭づくりを復活させる取り組みが菅福地区で始まりました。8月31日、「炭づくり復活プロジェクト」と題し、菅福地区の有志や地域おこし協力隊が集結。かつて同地区で炭づくりに加わっていた水谷勉さん(上菅)や炭焼き指導者の坪倉敏さん(中菅)を招き、13年ぶりに窯から竹炭を取り出しました。気になる窯の保全状態は良好。今後、竹の伐採などを行い、11月には再び窯に火が灯るとのこと。竹が新たな地域の特産品として生まれ変わることが期待されます。



窯の中は13年前に炭づくりを止めた時のまま。この日取り出された竹炭は約600kgで、どれもつやのある上質なもののばかり。メンバーは、「窯や炭づくりなど優れた技術を絶やさず受け継いでいきたい」と強い意気込みをみせた



地域の特性を生かそうと、17年前に菅福地区の有志が集まり始めた炭づくり。すべてが手作りで、窯は幅1.6m、高さ1.5m、奥行き3mという立派なもの



※(写真) 広報ひの2003年12月号より



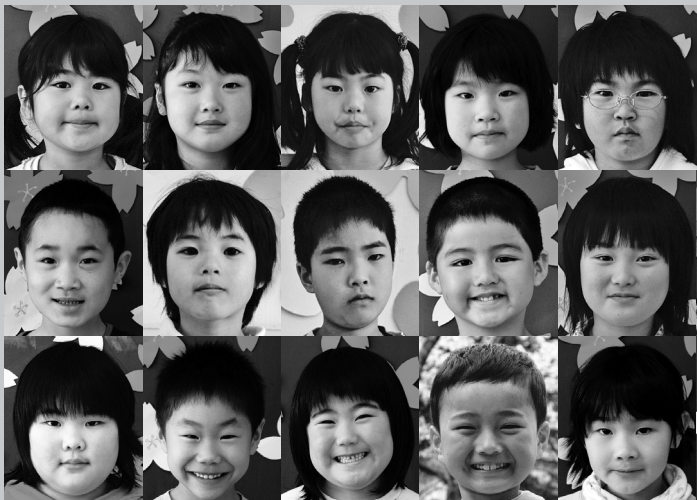
新成人を代表して、石田新太郎さん(下榎)と柳瀬明日香さん(舟場)があいさつ。柳瀬さんは、「地域との出会いの中で大きく成長できた。あきらめずにやれば何でもできる。みんなも自分らしく楽しく前向きに進んでいってほしい」と新成人の仲間にエール

03 目の前にある見えないものを大切に。ハタチの誓い

今年の新成人は21人。まちを離れていても“ふるさとを思う心、”をもち続けてほしい

8月15日、新成人の新たな門出を祝福し激励する日野町成人式が、町文化センターで行われました。新成人21人のうち、当日は20人が出席。式典では埴田町長や中学校時代の恩師らが激励の言葉を贈りました。

これからのまちの将来を担う新成人。しかし、その数は少子化に伴い、今後も減少傾向が予想されます。「地域ぐるみで新成人を祝い、新成人も地域とのつながりの中から今後の人生の歩み方を考える場」となれるのか。こんな時代だからこそ、今後の成人式について考えるときが来ているのではないのでしょうか。



小学校に入学した時の
新成人

誰が誰だか
分かる？
こんなに大きく
なりました！

根雨小学校 17人
黒坂小学校 4人
(広報ひの2006年4月号掲載)